BUDŌ NEWS

今月のニュース

天皇盃第73回 全日本男子弓道選手権大会 皇后盃第55回 全日本女子弓道選手権大会

上位入賞した男女各選手

第 27 回 全日本女子相撲選手権大会

第 13 回鹿島神宮奉納 日本古武道交流演武大会

天皇盃第73回全日本男子弓道選手権大会

山本亮介 教士六段（熊本） が嬉しい初優勝

優勝＝山本亮介教士六段

天皇盃第73回全日本男子弓道選手権大会は10月1日、三重県伊勢市の神宮会館弓道場で全国から選出された49名が参加して開催された。大会では、山本亮介（熊本）が、射詰競射の末、初優勝に輝いた。

本大会が伊勢神宮に隣接する神宮会館で開催されるのは3年ぶり。コロナ対策を講じ、会場には多くの観客が訪れた。

◇

午前9時に開会式が行われ、同10時から大会がスタートした。

予選は各自4射（一手2回）を行い、2射以上の的中を条件に採点の結果、上位10名が決勝に駒を進めた。

予選では最高得点賞を4大会連続して獲得している坂本達雄（青森）が3中1474点で5回連続の同賞に輝いた。2大会連続優勝の石川嵩（大分）は2中1373点にとどまり予選敗退。昨年2位の松田智行（青森）は4中1444点と高得点を叩き出し、予選3位で決勝進出を果たした。

決勝は各自10射（一手5回）を行い、的中数によって順位を決した。4回目（8射）を終えて失中がないのは山本亮介と渡邉英史（福島）の2名。6中の小野山直（広島）、清水北登（長野）、橋口聖矢（鹿児島）、飯山雄介（宮城）、櫻田紀行（香川）の5名が続く形となった。5回目の結果、山本と渡邉が2射とも的中させ、皆中。清水、橋口、飯山、櫻田が8中となり、順位はそれぞれ競射へ持ち込まれた。

3位以下の入賞者を決める遠近競射は複数の競者が一つの的に矢を放ち、矢が的の中央に近い方から順位を決定する。競射の結果、飯山が3位、清水が4位、橋口が5位という結果となった。

最後に優勝者を決する射詰競射が行われた。山本、渡邉の2名が順番に矢を放ち、いずれかが失中するまで行われる。1射目は両者とも的中。会場も固唾を飲んでその様子を見守る。続く2射目、先に矢を放った渡邉はここで的を外す。続く山本は迷いのない堂々とした射型から、的に向けてまっすぐに矢を放つ。これが的中すると観客から盛大な拍手が送られた。この日、予選から1本も失中なしという見事な射で山本が嬉しい初優勝を果たした。

立順	氏名	所属	予選			決勝														
			的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	的中	射詰		遠近競射	順位
1	坂本　達雄	青森	3	1474	1	×	×	○	○	×	○	×	○	×	×	4				
2	小野山　直	広島	3	1410	10	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	7				
3	松田　智行	青森	4	1444	3	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	7				
4	清水　北登	長野	4	1446	2	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	8			2	4
5	橋口　聖矢	鹿児島	2	1422	8	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	8			3	5
6	飯山　雄介	宮城	3	1428	5	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	8			1	3
7	渡邉　英史	福島	3	1422	6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	○	×		2
8	櫻田　紀行	香川	2	1414	9	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	8			4	
9	成田　祐也	秋田	3	1422	7	×	○	○	×	○	×	○	×	○	×	5				
10	山本　亮介	熊本	4	1432	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10	○	○		1

最高得点賞＝坂本達雄教士七段

２位＝渡邉英史教士七段

◎優勝者インタビュー

山本亮介教士六段
（熊本）

「優勝できてとても嬉しいです。コロナ禍と仕事が多忙になったこともあり、練習量は以前より減っていました。そのような中でも一つ一つの動作を見直して試合でどう引くかをイメージして練習を重ねてきました。大会前は『でけたしこ（一生懸命やったならできた分でいいよ、という熊本弁）』という気持ちで自分の中で区切りをつけました。

調子は非常によく、練習していて自然と中たりが出ていたため、この大会でもそれがキープできていたと思います。最後の射詰の時は今まで教えていただいたことを思い返しながら一生懸命やろうと考えていました。今回、優勝できましたが、まだまだ自分の未熟さを痛感しました。自分の課題をもっと磨いて高みを目指していきたいと思います」

○入賞者インタビュー

▽２位＝渡邉英史教士七段（福島）

「初めて決勝に残り、2位という順位は嬉しいですが、最後まで満足できる射ができなかったのが残念でした。国体に出場した際は調子が今一つだったため、国体後の調整を頑張ってきました。練習では中てることではなく、自分の納得できる射をしようと取り組んできました。来年もこの場に戻ってきたいと思います」

▽３位＝飯山雄介教士六段（宮城）

「率直に嬉しいです。２０１６年に5位入賞をしていたので、そこから順位を上げることができました。今年の国体に出場した際、ここで再び弓が引けるようにと一本一本誠を尽くして練習を重ねてきました。順位決定の時は疲労が重なっていましたが、的中させたいと思って引いていました。今後も誠を尽くし、迫力のある射を極めていきたいです」

▽４位＝清水北登錬士五段（長野）

「練習時の調子からは正直ここまで上がれるとは思っていませんでした。練習では家でできることをやり、大会では気力を振り絞って頑張

4位＝清水北登錬士五段

5位＝橋口聖矢錬士五段

3位＝飯山雄介教士六段

り抜くことができました。今回の大会で、10射詰めることの凄（すご）さ・大切さを痛感したため、10射皆中を今後の目標としたいです」

▽5位＝橋口聖矢錬士五段（鹿児島）

「ずっと調子が出なくて悪戦苦闘していましたが、最後まで諦めずに大会を乗り切ることができました。今回は十分な練習を積めなかったため、また来年に向けて頑張ります」

▽最高得点賞＝坂本達雄教士七段（青森）

「予選は失敗もありましたが良い得点でよかったです。ただ、決勝で的中が振るわなかったのは非常に残念でした。また、今回は気温が30度近くまで上がり、地元の青森との気温差が激しく、体調が優れませんでした。多くの課題が見つかり、勉強になった大会でした。今後も天皇盃の獲得を目指して頑張っていきたいと思います」

開会式

多くの観客が大会を見守った

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

皇后盃第55回全日本女子弓道選手権大会

三澤京子 教士七段（神奈川） が初の皇后盃獲得

優勝＝三澤京子教士七段

２位＝髙井幸子教士八段

皇后盃第55回全日本女子弓道選手権大会は10月2日、神宮会館弓道場で全国から選出された49名が参加して開催された。大会では三澤京子（神奈川）が悲願の初優勝を飾った。

◇

予選は男子と同じ条件の採点制で決勝進出者10名を決定した。予選は、有澤千秋（鳥取）が2中1417点で初の最高得点賞に輝いた。昨年優勝の金田由紀（千葉）は3中ながらも1378点で予選敗退。昨年最高得点賞と5位入賞を果たした髙井幸子（福島）は2中1405点と予選5位で決勝進出を決めた。

決勝は、4回目（8射）を終えての順位は7中の三澤、岩切久実（宮崎）が首位となる。その後に6中の大森淳子（東京）が続き、5中が伊藤汐織（山形）、松本愛子（東京）、髙井、岸恵理子（青森）、山本あけみ（福井）の5名という混戦に。

運命の5回目。最初に射場に立った三澤はしっかり的を狙って9、10本目を的中させ、優勝に王手をかけた。三澤と並んで首位に立っていた岩切は5回目を2本とも外し、この時点で三澤の優勝が決定し、会場から大きな拍手が送られた。

決勝終了後、まず5位決定の遠近競射が行われ、大森が入賞を果たした。続いて2〜4位決定の遠近競射により、2位・髙井、3位・山本、4位・岩切の順位が決まった。

立順	氏名	所属	予選			決勝												
			的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	的中	遠近競射	順位
1	三澤　京子	神奈川	4	1396	9	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9		1
2	木村　洋子	石川	3	1407	4	×	×	○	○	×	○	○	×	○	×	5		
3	伊藤　汐織	山形	3	1397	8	○	○	×	○	×	○	×	○	×	○	6	2※	
4	松本　愛子	東京	4	1416	2	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	6	2※	
5	大森　淳子	東京	2	1396	10	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	6	1※	5
6	髙井　幸子	福島	2	1405	5	○	×	×	○	×	○	○	○	○	○	7	1	2
7	岸　恵理子	青森	2	1400	6	○	×	○	×	○	○	×	○	×	×	5		
8	山本あけみ	福井	3	1398	7	×	×	○	○	○	○	○	×	○	○	7	2	3
9	岩切　久実	宮崎	2	1411	3	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	7	3	4
10	有澤　千秋	鳥取	2	1417	1	○	×	×	×	○	×	×	○	×	○	4		

※は５位決定の遠的競射

３位＝山本あけみ教士六段

最高得点賞＝有澤千秋教士七段

◎優勝者インタビュー

三澤京子教士七段
（神奈川）

「優勝したことに非常に驚いております。練習では常に弓道の基本（縦横十文字など）を大切にしています。今回の大会は神奈川県連の宮田範士八段、長谷川範士八段、依田教士八段や原教士八段など、大勢の方にご指導をいただいて参加することができました。その他にも弓友や地元の寒川町弓道協会の方、そして何よりも大切な家族の応援がありました。携わってくれた皆様の応援・ご支援があったからこそ練習に集中でき、優勝することができたと感じています。大会前は的中がなく調子が上がっていませんでした。大会では先生に教えていただいたことだけを心掛けて弓を引いていました。今後は自分の射を一生懸命やることはもちろん、後進の指導も頑張りたいと思います」

○入賞者インタビュー

▽２位＝髙井幸子教士八段（福島）

「20回出場してきてこれが最後と決めた大会でしたので、今までの先生や周囲の弓友、家族への感謝の思いを込めながら一射一射引いていました。予選の初めの方は暑さの影響もあり、思うように弓が引けませんでしたが、替弓（かえゆみ）に切り替えたところ、調子を取り戻し、心を改めて引くことができました。決勝も出だしはあまり良くありませんでしたが、休憩の際に気持ちを切り替え、最後まで一生懸命の気持ちで引くことができたと思います。今後大会に参加される皆様が『清く、美しく、優しい』女子特有の弓の姿を求めて精進し、発展していくようにと願っています」

▽３位＝山本あけみ教士六段（福井）

「入賞については率直に嬉しいです。この大会には常日頃のお稽古や先生方がおっしゃってきたことを大切にして臨みました。大会の雰囲気はいつもとは異なり緊張しました。次年度はもう一度この場に来て、さらに上を目指したいと思います」

４位＝岩切久実教士七段

５位＝大森淳子錬士五段

▽４位＝岩切久実教士七段（宮崎）

「入賞は嬉しいですが、最後の方が失速してしまい、反省しています。日々の練習では毎日の積み重ねを大切に一つ一つのことを丁寧にと心掛けています。今後は一つでも多くの課題を克服して前進できるように一から頑張りたいと思います」

▽５位＝大森淳子錬士五段（東京）

「この大会は皆様の力添えもあって出場できました。試合ではその幸せを感じながら自分の射を出したいという気持ちでした。コロナ禍で練習場所や時間を作ることが難しかったのですが、できる限りの練習をしてきました。一射一射諦めずに、全てで自分の射ができるようになりたいです」

▽最高得点賞＝有澤千秋教士七段（鳥取）

「直前にいろいろとハプニングがあり、この場に立てるだけでも本当にありがたく、感謝の気持ちでいっぱいです。そのような中、思いがけない最高得点賞をいただき、感謝しかありません。この大会への参加が本当に不安でしたが、皆様の支えで一つ一つクリアすることができました。今後は、基本に忠実に精進を重ね、皆様とまた同じ土俵に立てるように頑張ります」

好評発売中

死ぬまで弓道

小牧佳代（こまきかよ）（弓道教士七段）

四六判・上製・３４２頁・定価２６４０円

競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8カ月後に弓道を再開し、再開のわずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自伝を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ集。

日本武道館

〒102-8321
東京都千代田区
北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147
FAX 03-3216-5158
https://www.nipponbudokan.or.jp

第27回
全日本女子相撲選手権大会

各階級の優勝者

無差別級　久野愛莉（東洋警備保障）が４連覇
重量級　角田奈那（日本大３年）が２連覇

第27回全日本女子相撲選手権大会（主催＝日本相撲連盟、日本女子相撲連盟）が10月2日、京都府宇治市の京都府立山城総合運動公園体育館で無観客で開催された。

無差別級で久野愛莉が４連覇、重量級で角田奈那が２連覇を達成。軽重量級は２０２２年ワールドゲームズ中量級チャンピオンの石井さくら（足立新田高２年）が貫禄の優勝を果たした。中量級は長谷川理央（慶應義塾大１年）、軽量級は山下寧々（焼津中央高１年）、超軽量級は篠原茜（大妻高２年）がともに初の栄冠に輝いた。また、団体戦は白鳥（東京）が嬉（うれ）しい初優勝を遂げた。

大会は、個人戦が超軽量級から無差別級までの６階級（無差別級は総当たり戦、それ以外はトーナメント）、団体戦が体重無差別（先鋒は15歳以上17歳未満の者）の３人制で行われた。

◇

7月にアメリカで行われたワールドゲームズでクラスターが発生したことを受け、徹底した新型コロナ対策が施された。選手・関係者は3回以上のワクチン接種を受けているか、PCR検査での陰性が求められた。また、関係者の観覧は選手1名につき2名までと制限された他、検温表の提出、マスクの常時着用、手指消毒の徹底、声を出しての応援禁止など、入念な対策が講じられた。

冷静に河本の動きを見て相撲を取る篠原（左）

■超軽量級（50㌔未満）・決勝

篠原茜　○引き落とし　河本優心（ゆら）
（東京・大妻高）　（鳥取・鳥取城北高）

1回戦で本大会優勝3回の松浦みな美を破って勢いに乗る大妻高2年の篠原と名門・鳥取城北高1年の河本による高校生対決。

立ち合い、河本が踏み込むが篠原は左に変わる。篠原は前に出てくる河本をタイミングよく引き落とした。

篠原　茜

- 決勝：引き落とし
- 準決勝：下手捻り／押し出し
- 準々決勝：寄り倒し／腕捻り／浴びせ倒し／押し出し／叩き込み／上手投げ／寄り倒し／押し出し

篠原　茜（東京都）
松浦みな美（静岡県）
永井ひかり（岐阜県）
田中　沙季（岡山県）
柳瀬　佳奈（鳥取県）
賀數　　心（京都府）
河本　優心（鳥取県）
山下　夏実（和歌山県）
浅井　茄琳（大分県）
北村　果椰（京都府）
津谷　奏夏（秋田県）
土居美知子（東京都）

篠原　茜

1回戦の松浦選手は憧れの存在なので、ずっと意識していました。そこで勝てたので勢いに乗ることができたと思います。その後はがむしゃらに戦いました。優勝できてめちゃくちゃ嬉（うれ）しいです。女子相撲はまだマイナーだと思うので「私は女子相撲をやってる」と皆（みんな）が胸を張って言えるようになってほしいです。

■軽量級（65㌔未満）・決勝

山下寧々　○突き落とし　柴田歩乃佳
（静岡・焼津中央高）　（京都・立命館大）

焼津中央高1年の山下と優勝7回を誇る山中未久を準決勝で破った立命館大2年の柴田が対戦。

立ち合い、柴田が鋭く踏み込むが、構わず前に出る山下が土俵際まで追い込む。柴田は何とか回り込むが、最後は突き落として山下が勝利。

山下寧々

- 決勝：突き落とし
- 準決勝：小手投げ／押し出し
- 準々決勝：寄り倒し／下手投げ／上手投げ／引き落とし

原田　美涼（京都府）
柴田歩乃佳（京都府）
山中　未久（京都府）
谷元　青空（京都府）
乾　　夕月（東京都）
山下　寧々（静岡県）
田村　仁愛（鳥取県）
柿木　麻歩（岐阜県）

（準々決勝から）

山下（左）は前に出る相撲で柴田を圧倒

山下寧々

優勝することができて嬉しいです。1回戦は緊張で硬くなってしまったんですが、徐々にいつもの動きができるようになりました。道場でコーチからいろいろな技を教わっているので、その技を決めることができて満足しています。来年も出場して2連覇を目指したいです。

長谷川（右）が同学年のライバル・福里を押し出す

長谷川理央

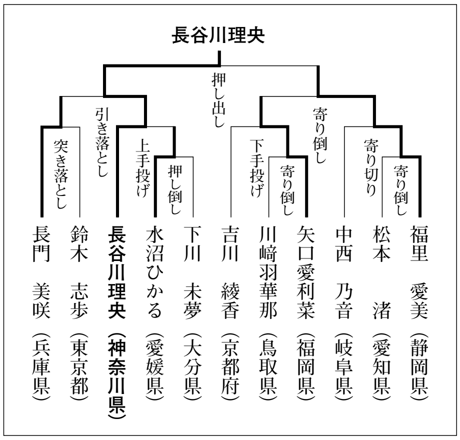
今春大学に入り、新しい環境で稽古してきました。大学では男子と稽古しているのですが、その成果を出せてよかったです。決勝は「物言い」がついてちょっと心配でしたが、自分の相撲を取り切ることができていたと思います。来年は世界大会があるので、出場して優勝を目指したいです。

■中量級（65㌔以上73㌔未満）・決勝

長谷川理央　〇押し出し　福里愛美
（神奈川・慶應義塾大）　（静岡・静岡県立大）

６月の全国学生女子相撲選手権大会で中量級優勝の長谷川と無差別級優勝の福里による同学年のライバル対決。

立ち合い、両者激しくぶつかる。長谷川が左に変化して右上手を引くと、前に出て倒れ込みながら押し出した。物言いがついたが、判定通り長谷川が勝利。

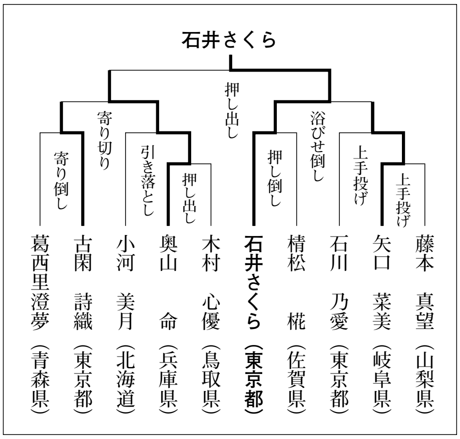


■軽重量級（73㌔以上80㌔未満）・決勝

石井さくら　〇押し出し　奥山命（みこと）
（東京・足立新田高）　（兵庫・朝日大学クラブ）

７月のワールドゲームズで金メダルを獲得した石井と、準決勝で取り直しの末に勝ち上がったベテラン奥山の対戦。

立ち合い、石井は奥山をしっかりと受け止め、そのまま前に出て押し出した。貫禄の相撲で石井が勝利した。



立ち合いでしっかり受け止める石井（右）

石井さくら

矢口選手との準決勝は厳しかったですが、うまく投げることができたのが大きかったと思います。決勝は立ち合いもうまく決まって、いい相撲が取れたと思います。来年は世界大会があるので、まずは選考会で選ばれるようにしっかり稽古したいと思います。

好評発売中！

東京大学 大学院法学政治学研究科 教授
新田一郎 著

相撲 その歴史と技法

歴史を通して相撲の技法がどのように条件づけられ推移してきたかを、写真やイラストを交えながらわかりやすく解説。

四六判・上製・422頁・定価2,640円

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

（公財）日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
https://www.nipponbudokan.or.jp

■重量級（80キロ以上）・決勝

角田奈那 ○寄り倒し 黒坂麻樹
（東京・日本大） （石川・いしかわ特別支援学校職）

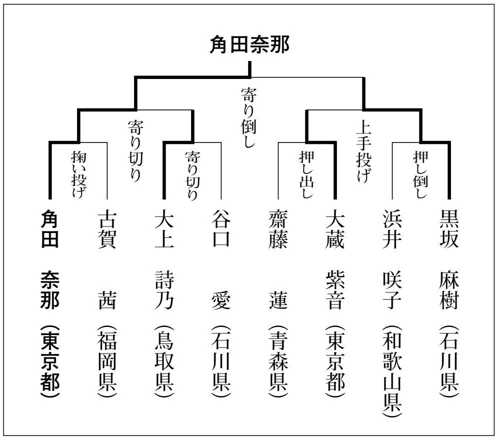
前回大会優勝の日本大３年の角田と第 18 回大会以来、久々の決勝進出を果たしたベテラン黒坂の対戦。

立ち合いは角田が鋭く踏み込み、一気に土俵際まで追い込む。黒坂は回り込むがなおも前に出る角田。土俵際、黒坂も必死に投げにいくが角田が寄り倒して２連覇を達成した。

角田（右）が会心の相撲で黒坂を下し、２連覇を達成

角田奈那

いつもは緊張して自分の力を出し切れないんですが、今日はあまり緊張せずに楽しく相撲を取ることができ、自分の力を出し切れました。今年はこれまで２位止まりが多く、なかなか優勝することができなかったので、最後に優勝できて嬉しいです。次の大会も優勝できるように頑張りたいです。



■無差別級・総当たり戦

久野　愛莉	（石川・東洋警備保障）	４勝
山下紗莉奈	（石川・金沢学院大附属高講師）	２勝２敗
中村　　凜	（東京・日本大）	２勝２敗
野村紗矢香	（和歌山・南紀支援学校職）	１勝３敗
今　　日和	（愛知・アイシン）	１勝３敗

３連覇中の久野が他を寄せつけない圧倒的な強さで４連覇を達成した。３連勝で迎えた山下との最終戦では、得意の左四つとなって盤石の相撲で寄り切り。

１回戦	久野　愛莉	○	（寄り切り）	野村紗矢香
	中村　　凜	○	（突き落とし）	今　　日和
２回戦	久野　愛莉	○	（寄り切り）	今　　日和
	山下紗莉奈	○	（押し出し）	野村紗矢香
３回戦	山下紗莉奈	○	（寄り切り）	今　　日和
	久野　愛莉	○	（掬い投げ）	中村　　凜
４回戦	中村　　凜	○	（寄り倒し）	山下紗莉奈
	今　　日和	○	（押し出し）	野村紗矢香
５回戦	野村紗矢香	○	（寄り倒し）	中村　　凜
	久野　愛莉	○	（寄り切り）	山下紗莉奈
２位決定戦				
	山下紗莉奈	○	（下手投げ）	中村　　凜

最終戦、久野（手前）は山下を寄り切って優勝を決めた

久野愛莉

（４連覇を達成して）正直、ここまで連覇できるとは思っていなかったので嬉しいです。足を怪我(けが)しているので実力を出し切れるか不安でしたが、後輩も出ているし絶対負けたくないと思っていたので優勝できてよかったです。次は５連覇を目指したいです。

白鳥の大将・石井（手前）が重量級３位の大上を寄り倒しで下し、優勝を決めた

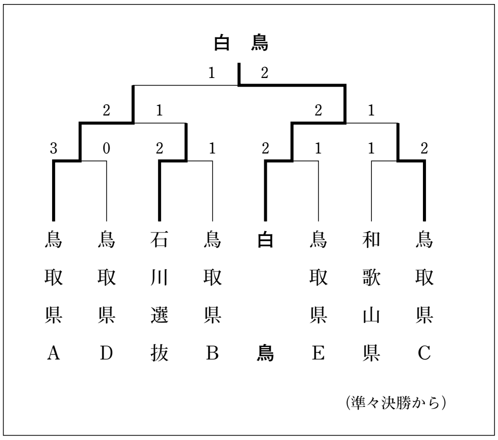
■団体戦・決勝

	白　鳥	２　――　１		鳥取県Ａ
先鋒	小宮山結月	○寄り切り		田村　仁愛
中堅	篠原　　茜	不戦勝○		古閑　詩織
大将	石井さくら	○寄り倒し		大上　詩乃

１回戦で前回大会優勝の静岡県を破って勝ち上がってきた白鳥と鳥取県Ａの対戦。準々決勝で負傷した中堅の篠原を欠き、１敗もできない白鳥は、先鋒・小宮山と大将・石井が連勝し、初優勝を飾った。

白鳥の先鋒・小宮山（手前）が田村を寄り切りで破る

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道



初優勝した白鳥の3人。左から小宮山、篠原、石井

会場となった京都府立山城総合運動公園体育館

石井大輔（東京・白鳥監督）

重量級の布陣ではなかったので優勝できるとは思っていませんでした。初戦で前回大会で優勝した強豪の静岡県に勝てたのが大きかったです。勝ち進むにつれてチームがまとまり、実力以上のものが出せたと思います。3人とも仲が良く、昔から一緒に練習をしているので、絆の強さが勝利に結びついたのではないでしょうか。

入賞者一覧

■超軽量級

優　勝　篠原　　茜（東京都・大妻高校）
準優勝　河本　優心（鳥取県・鳥取城北高校）
第3位　津谷　奏夏（秋田県・大館鳳鳴高校）
〃　　柳瀬　佳奈（鳥取県・あすなろ会）

■軽量級

優　勝　山下　寧々（静岡県・焼津中央高校）
準優勝　柴田歩乃佳（京都府・立命館大学）
第3位　山中　未久（京都府・クレオテック）
〃　　田村　仁愛（鳥取県・鳥取城北高校）

■中量級

優　勝　長谷川理央（神奈川県・慶應義塾大学）
準優勝　福里　愛美（静岡県・静岡県立大学）
第3位　長門　美咲（兵庫県・神戸親和女子大学）
〃　　矢口愛利菜（福岡県・東九州龍谷高校）

■軽重量級

優　勝　石井さくら（東京都・足立新田高校）
準優勝　奥山　　命（兵庫県・朝日大学クラブ）
第3位　古閑　詩織（東京都・日本大学）
〃　　矢口　菜美（岐阜県・朝日大学）

■重量級

優　勝　角田　奈那（東京都・日本大学）
準優勝　黒坂　麻樹（石川県・いしかわ特別支援学校職員）
第3位　大上　詩乃（鳥取県・公立鳥取環境大学）
〃　　大蔵　紫音（東京都・日本大学）

■無差別級

優　勝　久野　愛莉（石川県・東洋警備保障）
準優勝　山下紗莉奈（石川県・金沢学院大学附属高講師）
第3位　中村　　凜（東京都・日本大学）

■団体戦

優　勝　白　　鳥（東京都・小宮山結月、篠原茜、石井さくら）
準優勝　鳥取県A（鳥取県・田村仁愛、古閑詩織、大上詩乃）
第3位　石川選抜（石川県・谷口愛、久野愛莉、山下紗莉奈、黒板麻樹）
〃　　鳥取県C（鳥取県・中島雫、角田奈那、石川乃愛）

25流派が古の妙技を武神に奉納

第13回鹿島神宮奉納 日本古武道交流演武大会

演武始め・①天真正伝香取神道流剣術

第13回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会が10月2日、武神を祀る鹿島神宮（茨城県鹿嶋市）の社殿前特設演武場で開催された。コロナ対策を講じて延べ約1920名の観衆が見守る中、全国から集まった古武道の25流派・93名が各地に伝わる妙技を奉納した。

清々しい秋空の下、日本古武道協会の内田康介理事・事務局長の開会宣言で大会は開始された。国歌清聴に続いて、日本武道館の吉川英夫理事・事務局長が「本大会も13回を数え、出場流派は第1回大会の初心を忘れずに演武を行います。十二支と同様に一周りした本大会が三周り、四周りと続くことを願います」と主催者挨拶を行った。次に鹿嶋市の田口伸一市長が「武の神である武甕槌神の御前で演武者の皆様の日頃鍛錬

内田康介
日本古武道協会理事・事務局長

吉川英夫
日本武道館理事・事務局長

鹿島則良
鹿島神宮宮司

田口伸一
鹿嶋市長

⑯柳生新陰流兵法剣術

⑮荒木流拳法

社殿前は多くの観衆で賑わった

した代々伝わる技を披露してください」と来賓祝辞を述べ、鹿島神宮の鹿島則良宮司が「全国の25流派の皆様が演武を行うということで鹿島の大神様も喜んでおられると思います。演武の際には技とともにその心もお示しいただけたらと思います」と歓迎の言葉を述べた。

演武始めは、鹿島とともに武道の古い歴史を有して香取の地に伝わる天真正伝香取神道流剣術の演武から開始され、居合術などを披露した。

時間が進むにつれて社殿前には多くの観衆が集まり、気温の上昇とともに熱気を帯びた。荒木流拳法の鎖鎌の演武では、剣で向かってくる相手を鎖で見事に生け捕る様に歓声が上がった。柳生新陰流兵法剣術は竹刀剣道以前の「袋竹刀」を用いて演武。打突時の独特な鈍い音が静まり返った鹿島の杜に響いた。

演武納めは、地元・鹿島に伝わる鹿島新當流剣術が演武を披露。中興の祖となる塚原卜伝が極意を悟ったとされる「鹿島の太刀」を披露した。

最後は日本武道館の永嶋信哉振興部長が閉会を宣言して大会は終了した。

③大東流合気柔術琢磨会

②無比無敵流杖術

⑤無雙直傳英信流居合術

④小野派一刀流剣術

⑨関口流抜刀術

⑥立身流兵法

好評発売中！

埼玉大学名誉教授

大保木輝雄（おおぼきてるお）著

剣道 その歴史と技法

剣道の歴史・技法を戦国期から現代まで時代を追ってわかりやすく解説。

四六判・上製・516頁・定価2,640円

ご注文・お問い合わせ

（公財）日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147　FAX 03-3216-5158
https://www.nipponbudokan.or.jp

⑦長谷川流和術

⑧卜傳流剣術

⑪天神真楊流柔術

⑩北辰一刀流剣術

⑲直心影流薙刀術

⑬鞍馬流剣術

⑳神道夢想流杖術

⑫天道流薙刀術

⑰金硬流唐手・沖縄古武術

⑭大東流合気柔術

⑱神道無念流剣術

好評発売中！

四六判・上製・362頁・定価2640円

合気道道主 植芝守央（うえしば もりてる） 著

合気道 その歴史と技法

合気道の歴史とその理念、稽古法、基本的な技の解説…
合気道の全てを網羅した決定版。

開祖・植芝盛平

二代道主 植芝吉祥丸

合気道道主 植芝守央

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

（公財）日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147　FAX 03-3216-5158
https://www.nipponbudokan.or.jp

演武納め・㉕鹿島新當流剣術

㉑荒木流軍用小具足

㉒柳生心眼流體術

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

㉓天然理心流剣術

㉔戸田派武甲流薙刀術

大会前日に術技交流研修会

大会さながら、迫真の演武

大会前日の1日、鹿島神宮の武徳殿で、術技交流研修会が実施された。例年は演武場を2面に分けていたが、密を避けるため、昨年と同様に1面だけを使って2部制とした。

1面だけのためか、待機中の演武者が他流派を見取り稽古する構図となり、参加者は大会同様の迫真の演武を繰り広げた。

本大会では、古武道修業者の技術向上とともに親睦を図るため、大会進行の一部を演武者が交代で行っている。研修会ではその打ち合わせも行われた。演武者は研修会・演武大会と大会運営に関わり、親睦会が実施されないコロナ下の本大会では、貴重な流派間の交流の機会となった。

演武は本番と同じ、各流派8分間で行われた

▲特設演武場の清掃を行う

◀流派間で打ち合わせを行う演武者たち

【出場流派・参加者】

①**天真正伝香取神道流剣術**（京増重利、荒野祥司、櫻井俊也）
②**無比無敵流杖術**（根本憲一、渡邊文男、沢幡伸男、小國英智）
③**大東流合気柔術琢磨会**（小林明彦、福岡愼輔、三上篤士、中岡飛鳥）
④**小野派一刀流剣術**（矢吹裕二、石崎徹、門松猛、鈴木宏哉）
⑤**無雙直傳英信流居合術**（関口髙明、中野園子、中田博久、尾上政人）
⑥**立身流兵法**（加藤紘、加藤敦、梅谷咲太郎、大畑勇気）
⑦**長谷川流和術**（桑原巡、倉田勝己、逸見彰一、小野晴佳）
⑧**卜傳流剣術**（小山秀弘、小山隆秀、小山秀晃）
⑨**関口流抜刀術**（中山鑑心、林憲一、米谷明、米谷香織）
⑩**北辰一刀流剣術**（髙山陽好、上田忠夫、吉田信二、桐原英夫）
⑪**天神真楊流柔術**（柴田孝一、柴田俊充、阿部岳春、今野賢太）
⑫**天道流薙刀術**（木村恭子、小野由紀子、野﨑恵美、木村有里）
⑬**鞍馬流剣術**（柴田章雄、渡辺良雄、吉田穣覚、松井康一）
⑭**大東流合気柔術**（近藤昌之、臼山秀遠、河野純一、滝口太士）
⑮**荒木流拳法**（西川二郎、細野桂一、鈴木崇史）
⑯**柳生新陰流兵法剣術**（柳生耕一、渕上俊顕、藤岡桂、永井慶太）
⑰**金硬流唐手・沖縄古武術**（早坂ゆかり、早坂義文、佐々木透、江幡妙子）
⑱**神道無念流剣術**（小川武、萩崎昭、土屋正則、相馬巧一）
⑲**直心影流薙刀術**（関根恵児、栗原久子）
⑳**神道夢想流杖術**（庄子都代子、安部雅人、田中慎一郎、河村豪祐）
㉑**荒木流軍用小具足**（千葉明、片桐克彦、鶴岡嘉治、鈴木優輔）
㉒**柳生心眼流體術**（梶塚靖司、藤澤勝也）
㉓**天然理心流剣術**（常田貞行、須田英宏、時田由記、小林恵子）
㉔**戸田派武甲流薙刀術**（建入久代、永埜浩司、本多日向子、小野貴史）
㉕**鹿島新當流剣術**（内田嘉昭、橋本大、今井淳也、横尾廣美）

東京・三鷹で10月から「地域合同部活動［空手道部］」

一流選手招きキックオフイベントを開催

一流選手の演武に多くの生徒・保護者が魅了された

東京都三鷹市で10月からスタートする「地域合同部活動［空手道部］」を広く知ってもらおうと、市内の小中学生を集めたキックオフイベントが9月19日、同市立の第二中学校と第六中学校で開催された。参加した中学生たちは五輪メダリストなど一線で活躍する空手道選手の演武や写真撮影を楽しんだ。

スポーツ庁が主導し、公立中学校での運動部活動の休日の指導が来年度から地域のスポーツ少年団などに本格的に移行される。これを先取りする形で、三鷹市教育委員会は10月から市立中学校7校に通う全生徒約3500名を対象に空手道の合同部活動を設けた。同市では公立中学校での武道授業で空手道を導入していたことが縁で、合同空手道部の発足につながった。

活動は原則、毎週土曜日の午前9～11時で、第二中学校の体育館を使用。三鷹市空手道連盟や東京都空手道連盟、全日本空手道連盟が指導・支援に当たる。この日の午前中には第六中学校に東京五輪銀メダリストの清水希容選手が訪れ、230名以上がトークや演武を楽しんだ。

また、第二中学校には概ね350名が集い、午後2時からイベントがスタートした。

開会式で笹川堯全日本空手道連盟会長が「私たちは武道・スポーツとして空手道を普及してきました。空手道は直接打撃を与えるものではないため、けがのリスクもありません。また、礼儀作法が正しくなり、相手のことを思いやれるようになります。今日来ている招待選手を見て空手道を理解していただきたいと思います」と挨拶した。

続いて河村孝三鷹市長が「三鷹市では子どもたちを真ん中に、地域の方々が入って楽しく活動を行うという施策を進めています。その中で全空連をはじめとした関係者の皆さんの力を借りて実際に施策を始めようとしたことがきっかけとなり、今回の部活動実施に至りました。地域合同部活動のモデルケースを三鷹市から発信していきたいと考えています」と述べた。次に三鷹市空手道連盟の石井良司会長が「空手道はい

尾野真歩選手（女子個人形）

石井良司
三鷹市空手道連盟会長

河村孝
三鷹市長

笹川堯
全日本空手道連盟会長

中学校の教員、三鷹市教育委員会、招待選手との記念撮影

団体形を披露する（左から）米山、佐藤、関根の３選手

かに心を鍛え、徳を積み、人間形成に役立てるかを大切にしています。今日の演武を見て、空手の素晴らしさを体感していただきたいと思います」と挨拶した。

その後、来賓と招待選手が紹介された。招待選手は以下の通り。

・女子個人形　尾野真歩選手
・男子団体形　佐藤競選手、関根斗夢選手、米山悠介選手

開会式終了後、招待選手のトークが行われた。

○尾野真歩選手

「空手には形と組手の2種類の競技があります。形は架空の敵を想定して受けや突きの動作を一連の流れで行います。形の魅力は自分の身体一つで織りなすスピードやパワー、緩急などの技術的な美しさや人間の体の可能性を感じることができます。

もう一つは礼儀作法が身につくことです。仲間たちと切磋琢磨（せっさたくま）することもできます。競技としても武道としても世界に誇れる文化だと思います。今回のイベントで地域合同部活動［空手道］に皆さんが一歩を踏み出していただければと思います」

続いて尾野選手と男子団体形の演武が行われた。選手たちの気迫に溢（あふ）れた力強い演武に中学生たちは熱い視線を向けていた。演武終了後には選手たちに割れんばかりの拍手が送られた。

演武終了後は各選手に対する生徒からの質問コーナーへ移った。

【質疑応答】

Q．試合で緊張した時はどうしているんですか。

A．大切なのは試合の前にどれだけ努力を積み重ねられるかだと思います。それでも緊張する時は開き直って自分のやってきたことを見せようという気持ちで試合をしています。

Q．演武で心がけていることは。

A．頭で考えるより、練習でやってきたことを思うままに演武することを心がけています。

Q．どうしたらそんなに速く動けるようになりますか。

A．力まずに力を抜いて演武しています。その方がスピードが速くなると思います。

最後に記念撮影を行って約1時間のイベントが終了した。

武道・スポーツフェスティバル

東京武道館で「はじめての武道体験」

弓　道

なぎなた

の武道を体験したよ

剣　道

合気道

「はじめての武道体験」がスポーツの日の10月10日、東京武道館で実施された。子どもから成人までの延べ460名が参加し、武道9種目（柔道、剣道、弓道、空手、なぎなた、合気道、少林寺拳法、杖道、居合道）の中から興味のある種目を選択・体験し、盛況を博した。

この催しは延べ１６００名が来場したスポーツの日記念イベント「武道・スポーツフェスティバル２０２２」（主催＝東京都スポーツ文化事業団）の一つとして行われ、小学生以上の武道未経験者（年中〈4歳〉相当から参加可能種目もあり。弓道は15歳以上）なら誰でも参加可能とした。体験会は種目ごとに1回40分で複数回行われ、１人最大4種目まで体験できた。同フェスティバルでは、これまで柔道、弓道、空手、なぎなたなどの体験会は実施していたが、９種目もの多様な武道を行ったのは初めて。

館内外は、参加する親子連れで溢れ、各々が興味を持つ種目の会場に駆けつけた。参加者は武道特有の動作に戸惑いながらも初めての体験に

柔　道

杖　道

館内外で賑わいをみせた東京武道館

空　手

スポーツの日に沢山

少林寺拳法

居合道

特別稽古で指導する大野選手（中央左）

心ときめきながら、心地よい汗を流した。

イベントでは、リオデジャネイロ（２０１６年）と東京（21年）オリンピックの柔道73キロ級金メダリストの大野将平選手による特別稽古も実施された。大野選手のトレーニングメニューを一緒に行ったり、内股のポイントなどを直接指導し、柔道経験のある子どもたちで賑（にぎ）わった。

武道以外にもスペシャルトークショーが行われ、ダンス教室、ボルダリングなどのスポーツプログラムやミニ弓道ゲーム（的当て）、折り紙の力士で勝負するトントン相撲などのレクリエーションも人気だった。